

「ゆとり」のつくり方を考える
「英検合格」で「ゆとり」をつくり出そう

開倫塾
塾長 林 明夫

Q：教育では「ゆとり」が大切だといわれますが、どう思われますか。

A：(林。以下略)どんなことをする場合でも、「ゆとり」は大切だと私は考えます。「ゆとり」がありませんと「せっぱつまって」ものごとがうまくいかなくなる場合が多いからです。勉強にも「ゆとり」は必要だと私は思います。

Q：「勉強」における「ゆとり」とは何ですか。

A：「余裕(よゆう)」ではないでしょうか。勉強の上で「ゆとり」があるというのは、「せっぱつまっていない」、つまり「余裕」があるということだと考えます。

Q：では、どうしたら勉強の上での「ゆとり」つまり「余裕」は生まれるとお考えですか。

A：何学年か先まで勉強しておく、「ゆとり」つまり「余裕」が生まれます。とりあえずは、「ゆとり」をつくるために1～2年先まで勉強することです。

Q：そんなことができるのですか。もしできたとしても、やっていいのですか。

A：勉強は、「習い事(ならいごと)」と同じです。1つのことが確実にできるようになったら、どんどん先に進んでいいのです。先に進まない限り、「ゆとり」や「余裕」は生まれません。勉強に遠慮は一切不要です。好きなだけ先に進んで下さい。

Q：もう少し具体的に説明して下さい。

A：私が一番お勧(すす)めしたいのは、「実用英語検定」つまり「英検」合格で「ゆとり」をつくり出すことです。

小学校時代に5級を取得すれば、中学1年の英語の勉強に「ゆとり」が出ます。なぜなら、5級は中学1年終了程度だからです。

中学1年生のうちに4級を取得すれば、中学2年の英語の勉強に「ゆとり」が出ます。なぜなら、4級は中学2年終了程度だからです。

中学1年生のうちに3級を取得すれば、中学3年の英語の勉強に「ゆとり」が出ます。なぜなら、3級は中学3年終了程度だからです。

中学3年生の秋に3級に合格しても、高校入試の英語の勉強に「ゆとり」が出ます。なぜなら、半年早く中学の英語の勉強が終わっているからです。中3の秋に英検3級合格を果たす勉強をした上で熱心に受験勉強に取り組みさえすれば、模試の偏差値60以上も可能です。高校への調査書にも「英検3級合格」と特記されます。

中学3年生の秋に英検準2級に合格すれば、高校入試だけでなく高校1年の英語の勉強に「ゆとり」が出ます。なぜなら、準2級は高校1年終了程度だからです。

それだけにとどまらず、中2の秋の英検準2級合格は、高校入学後に「ゆとり」を生み、「高校数学」と真正面から取り組む「余裕」を生み出します。「数」をマスターすれば、国立大学や理系の大学に進学できる可能性が高まります。(なぜ私立大学の文系に進学するかといえば、「高校数学」の勉強が不十分である場合が多いからなのです。)

高校3年生の春あるいは秋までに英検2級に合格すれば、大学入試に極めて有利です。なぜなら、英検2級合格は、高校での英語の勉強をすべて終了したレベルにあることを示しているからです。英検2級合格後、大学センター試験の過去の問題を30回分丁寧に勉強すれば160点以上得点できます。

大学時代に、日本語の新聞を1面から1時間以上読み、その後で分かっている記事だけでもいいですからデイリー・ヨミウリを辞書なしで1時間読むことを継続すれば、卒業までに立派な英語の使い手になれる。社会に出てから仕事や人生に「ゆとり」が生まれます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：「ゆとり」つまり「余裕」は、自分で計画を立ててつくり上げるものです。このことを「英検合格」を例に考えてみました。他の科目でも「ゆとり」をどうつくったらよいか、よく考え、夏休みから1科目でも多く実行に移してみませんか。

皆さん、頑張ってください。